

## 奄美大島の中核病院における輸血運用について

◎渡邊 順士<sup>1)</sup>、中村螢華<sup>1)</sup>、河野 陽平<sup>1)</sup>、中堂園 文子<sup>1)</sup>、狩元 伸一<sup>1)</sup>  
鹿児島県立大島病院<sup>1)</sup>

当院は奄美群島の二次（三次）救急医療機関として24時間365日体制で地域医療に貢献している。2014年に救命救急センターが開設され、2016年にドクターヘリ就航、2017年からは脳死下臓器提供も開始している。さらに2025年3月には輸血機能評価認定（I&A）を取得した。奄美大島は鹿児島県本土から南へ380kmの距離に位置しており、地理的制約や気象条件による様々な影響がある。その中でも輸血用血液製剤の安定供給は当院における重要な課題の一つである。当院は1日に3回の航空便で日本赤十字社鹿児島県血液センターから血液製剤の供給を受けている。院内在庫としてRBCはO型7P、A型6P、B型2P、AB型2P、FFPはO型3P、A型4P、B型3P、AB型4Pを確保している。なお、PCの院内在庫は保有していない。航空機で血液製剤を運搬するため、悪天候時には航空機が欠航となり供給が遅延する事がある。限られた血液製剤の在庫数の中で円滑な輸血療法を行うため、中央検査部では輸血需要の把握や在庫管理を厳密に行っている。しかし、院内の血液製剤の在庫では補えない場合には「院内血」が年に数回実施されているのが現状である。このような背景から、より安全な輸血療法を行うことを目的として当院は2021年5月から輸血機能評価認定（I&A）の取得に向けて輸血体制の整備を行った。取り組んだ内容としては血液型2回採血の徹底や内部精度管理の見直し、臨床検査技師の新人教育の見直し、院内血の体制の確立と各種マニュアル等の精査・修正等が挙げられる。当院では定期的な職員の人事異動が行われ、輸血療法に関わる医師・看護師・臨床検査技師が毎年入れ替わる。また他の県立病院とは診療科や血液製剤使用実績、緊急輸血の頻度等が異なるため、当院で輸血に携わる際に不安を感じる職員も少なくない。日頃からマニュアルを遵守して輸血業務に携わることにより、円滑な輸血療法はもちろん、イレギュラーな事態となった場合に柔軟に対応することができると考えられる。今後もマニュアルを適宜見直すとともに多職種合同のシミュレーションや勉強会を通じて安全な輸血療法に努めていきたい。

連絡先

TEL:0997-52-3611